

# 大里小だより

12月号

令和3年11月26日

人権学習交流会（11/19） 参観できなかったみなさまへ

## 1年生《見える違いと、見えない違い》

見える違い（※眼鏡をかけている、かけていない）は、見ただけで分かる。見えない違いを見つけるためには、自分から話をしたり、聞いたりしたらいい。いろんな友だちと話をした。同じ人もいたし、違う人もいた。みんな違って、みんないいんだ。

でも、みんなと違うことが怖い時がある。何か言われたらどうしよう。笑われたらどうしよう。だから、そういう気持ちにならなくていいように、こうしようと思う。

と、発表してくれました。

ご家庭からも、頭では違って当たり前なんだと分かっているけど、みんなと違うことに不安を感じる子どもたちが安心できるよう、お話をしやってください。

## 2年生《大切な贈り物 一人ひとりの名前》

名前にはいろいろな思いが込められていることを知った。

私の名前には「きょうだい仲良くできるようにと…」「人生に追い風が吹くようにと…」「天からの授かりものだから…」「将来大きな夢に向かって…」「かがやく人になってほしいと…」「元気いっぱい伸び伸びと育ててほしいと…」「思いやりのある人になってほしいと…」という思いが込められている。

そのことを知って、とても幸せな気持ちになった。自分の名前が大好きになった。ありがとう。みんな大切な名前なんだね。

と、発表してくれました。

ご家庭のみなさまも、この子たちが生まれてくれた時の感謝の気持ちと慈しむことを誓ったことを思い出して、子どもたちの学校生活を、どうか応援してあげてください。

## 3年生《みんなの気持ちを知ろう 受け止めよう つながろう》

自分も友だちも大切にすることについて考えてきた。

特に、言葉の遣い方について振り返った。

ふわふわ言葉・ぽかぽか言葉は、聞いてうれしい。心が温まる。とげとげ言葉・ちくちく言葉は、嫌な気持ちになる。言葉の暴力だ。いじめているのと変わらない。

友達のいいところを見つけようと、スパイ活動をした。みつける方も、見つけられる方もいい気分だ。

カナダから始まったいじめ反対運動「ピンクシャツ運動」に協力して、「私はこうしていきたい」と、メッセージをピンクの紙に書いた。

一人ひとり違う。違うことはよいこと。でも、友だちがどんな気持ちなのか、分からないこともある。そんな時は、友だちに聞いてみたい。話しかけていきたい。

と、発表してくれました。

自分も友だちも大切にするためには、自分のことを伝えること、相手の話を聞くこと、そうやってつながることが大事です。ご家庭でも、友だちに「聞いてごらん」「話をしてごらん」と声をかけてやってください。身につけてほしい社会性です。

#### **4年生《支え合い 助け合い》**

からだに障がいがある人たちのことについて考えた。

口のグループ、耳のグループ、目のグループ、足のグループ、手のグループに分かれて調べた。また、どんなふうに困っているか、障がいのことを少しでも理解しようと体験活動をした。耳栓をしたり、目隠しをしたり、車いすに乗ったりして生活してみた。

いろいろなことが分かった。障がいのある人が困っていること、私たちにできること。

みんなで支え合って、助け合うことが大切だ。

と、発表してくれました。

調べたことの他にも様々な障がいがあるので、今後学びを広げていってほしいと思います。また、友だち同士においても、得意なこと・苦手なことがそれぞれ違います。弱者を救うという視点ではなくて、みんなが救われる、誰にでも優しい取組として発展させていってほしいと思います。

#### **5年生《コミュニケーション能力について》**

障がいがある人とコミュニケーションをとるために、相手のことを理解すると、その人たちに優しくなれる。

生活の中で使ういろいろな物に点字があることを調べた。また、コミュニケーションのための指文字や手話を覚えた。手話は、感染症対策でしゃべるのも控えなくてはならないときに、「(児童)トイレに行っていていいですか?」「(担任)いいよ」と便利に使えたりもした。また、教育実習の先生との勉強で、歌に合わせて手話をした。

私たちは今、もし障がいのある人に出会っても、優しく接していける自信があります。

と、発表してくれました。

何とかして相手に伝えたいという思い、相手のことをわかりたい・受け止めたいという思いが、自分の中にあるかということです。その心の在り方を大事にしてほしいと思います。そして、日常的には、クラスの友だちに優しく接する自信を深めてください。

#### **6年生《着ぐるみを脱いだ本当の自分》**

6年生は人権学習のゲストティーチャーから、「子どもの頃、まるで着ぐるみを着て本当の自分の姿を隠すように生活をしていて、とても苦しかった。家ではそうはいかなかったけれど、学校ではありのままの自分でいられるようになって解放された。」というお話を聞きました。このことをきっかけに、話し合い考えたことを発表してくれました。

着ぐるみを着て、学校に来ている人が私たちのクラスにもいることを知った。

お互いのことを知ることの大切さに気づいた。

日常には無意識の差別が多く存在している。そんな偏見や差別が、誰かに着ぐるみを着させることにつながっている。

大切な友だち。そんなつもりはなかったでは、済まされない。

自分から行動を起こしていく。私は～していく。

着ぐるみを脱いで、本当の自分、100%の自分で、安心して過ごしたい。

口先だけでなく、一人ひとりが勇気をもって行動していきます。

と、発表してくれました。

最後の言葉、とても力強い宣言でした。これからは自分自身に、自分の行動が厳しく問われます。葛藤があるでしょうが、それなしに簡単に勇気は出るものではありません。頑張りたいと思います。

ところで、私も先生として、親として、自分の期待どおりに振る舞う着ぐるみを子どもに着させてこなかったかと振り返ります。

児童会会長は、高学年の部が始まるにあたり、「この発表を機に、いろんな気づきがあると思う。」と挨拶してくれました。低学年（1～3年生）の部では、すべての発表が終わったあと、感想を言いたいと途切れることなく手が挙がっていましたが、高学年（4～6年生）では少なく残念でした。でも、しっかりと発表してくれた子どもたちですから、きっとそれぞれに気づきがあったと思っています。

交流するという目的に合わせて、来年度はこのあたり改善し、子どもたちの感想をたくさん聞けるようにしていきますので、保護者の方からの声もたくさん子どもたちに聞かせてやってください。お願いいたします。

1/22(土) やっと日常の授業を参観してもらう機会を設けることができそうです。ぜひご来校ください。 ※後日、授業参観の案内を出します。